

# 新町遺跡 10 次調査現地説明会資料

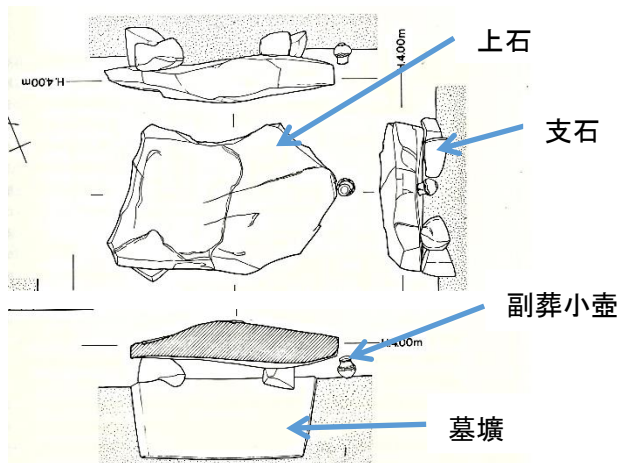


新町遺跡 1 次調査全景（現在、展示館内で復元）

令和 4 年 1 1 月 1 2 日

糸島市役所文化課

## 1. はじめに～支石墓の名称と分布



## 2. 新町遺跡（新町支石墓群）の調査

新町支石墓群は大正時代から知られた遺跡で、九州大学の中山平次郎により紹介されたことから始まります。本格的な発掘調査は昭和 61（1986）年からで、周辺域を含めると今回の調査で 10 回目の調査になります。とくに 1 次調査では支石墓を含めた 57 基の弥生時代早期～前期の墓群が確認されるとともに、人骨も出土し、特徴的な形質や争いの痕跡も認められました。

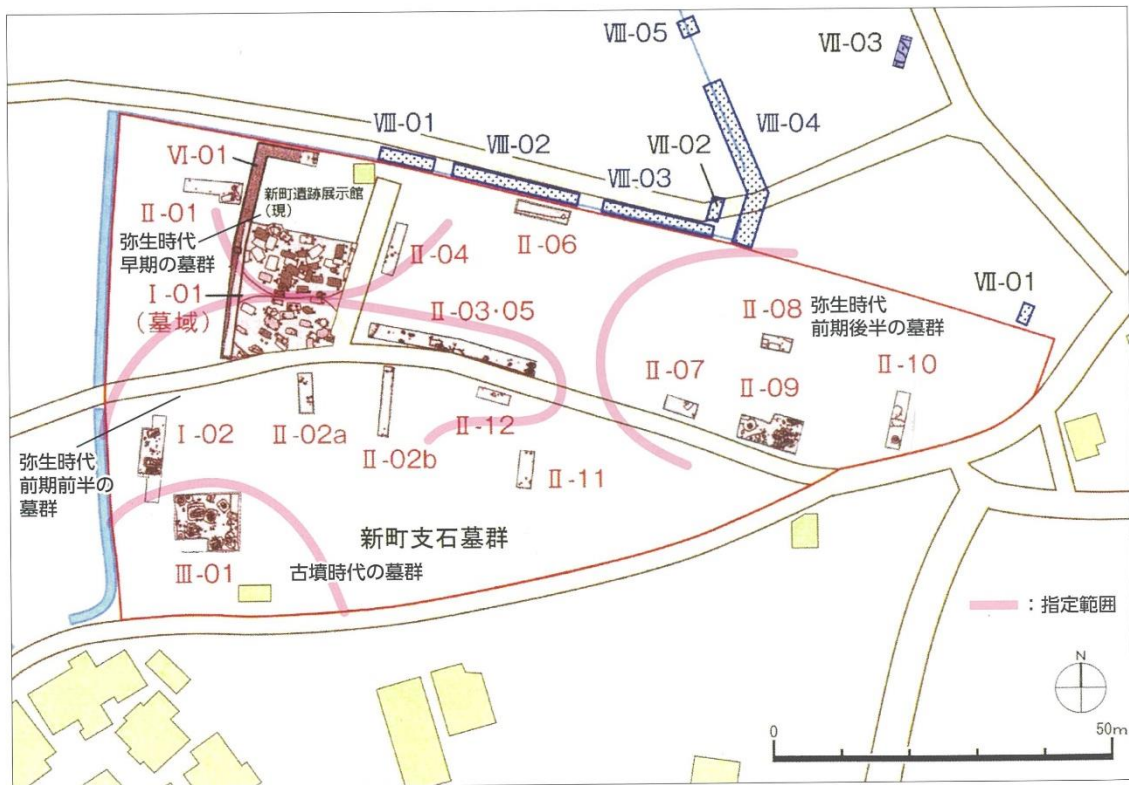
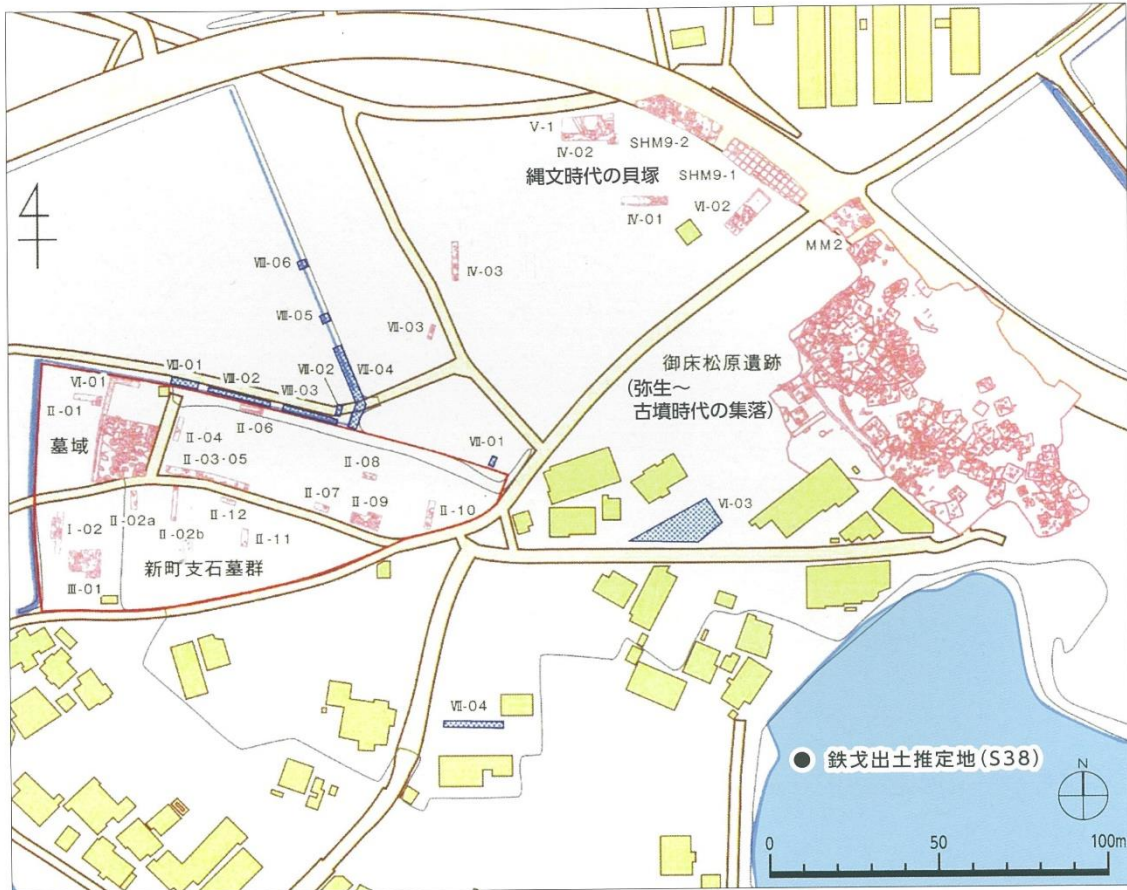
平成 12 年 9 月 6 日には

「水田稲作を受け入れた弥生時代初期の朝鮮系墓制である支石墓を主体とする墓地遺跡。埋葬人骨には低顔・低身長という縄文人的特徴が認められ、文化の受容の様相を示すとともに、磨製石鏃が刺さった男性人骨が発見され、弥生時代初期から戦闘があったことを示している。弥生文化の成立状況とその時期の社会などを知る上で、きわめて重要な遺跡である」ことから国史跡に指定され、恒久的に保存されることになりました。

## 3. 新町遺跡 10 次調査の成果

- ① 展示館東側の調査…弥生時代早期の墓群の展開
- ② 展示館西側の調査…支石墓の再確認と時期の特定

## 4. おわりに





新町遺跡 10 次調査地点



左：I - 1 区現代廃棄土坑（弥生時代早期の木棺墓（支石墓か？）が現代廃棄土坑に切られる）  
 右：現代廃棄土坑拡大図（副葬小壺は半裁される）



II 区全景



II 区支石墓（4 号墓）